

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名		防災施設整備事業			事業コード	0027
担当課等	所属名	総務部 消防防災課			担当係名	
	課長名	総務部 消防防災課	担当者名	総務部 消防防災課 和野	電話番号	5223

1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	安全な暮らし	コード 2	施策	自然災害対策の推進	コード 1
	基本事業	防災体制の強化	コード 2			関連予算 費目名
			特記事項			
	事業期間	○ 単年度 ● 単年度繰返 ○ 期間限定複数年度				⇒ (開始年度 7年度～)
事務事業の概要	被災者及び避難者1万人を想定した備蓄品を整備する。					
根拠法令等	盛岡市地域防災計画					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
平成7年の阪神淡路大震災を契機として、被災者及び避難者への毛布等の備蓄の必要性が求められ、地域防災計画に位置づけられて開始した。						
この事務事業に対して関係者(市民, 議会, 事業対象者, 利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
災害時に備えての備蓄品の充実を求められている。						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどう変化したか。今後の見通しはどうか						
備蓄品目の充実を考えているが、予算面から確保が困難となっている。						

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 想定される被災者及び避難者数	単位	人
			B. 簡易トイレ	単位	セット
			C. アルファ米	単位	食
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. 簡易トイレの整備数	単位	セット
			B. アルファ米の更新数	単位	食
			C. 避難場所標識の整備数	単位	基
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. 簡易トイレ在庫数 【指標の性格:● 上げる ○ 下げる ○ 維持する】	単位	セット
			B. 更新計画に対するアルファ米の充足率＝在庫数÷計画数 【指標の性格:○ 上げる ○ 下げる ● 維持する】	単位	%
			C. 整備計画に対する避難場所標識の充足率＝設置数÷計画数 【指標の性格:● 上げる ○ 下げる ○ 維持する】	単位	%
⑦結果 (上位基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するか)	⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	市民アンケート調査「避難場所を知っている」と答えた市民の割合(単位:%) 市民アンケート調査「防災対策をしている」と答えた市民の割合(単位:%) 市民アンケート調査「防災訓練に参加する」と答えた市民の割合(単位:%) 町内会・コミュニティの自主防災組織率(単位:%)		

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	想定される被災者及び避難者数	人	10000	10000	10000	10000	10000	10000	26 年度 10000
対象 指標B	簡易トイレ	セット	60	0	0	0	0	100	26 年度 200
対象 指標C	アルファ米	食	30000	30000	30000	30000	30000	30000	26 年度 30000
活動 指標A	簡易トイレの整備数	セット	60	0	0	0	0	20	26 年度 80
活動 指標B	アルファ米の更新数	食	6000	1600	3000	10500	6000	6000	26 年度 6000
活動 指標C	避難場所標識の整備数	基	0	0	0	0	0	1	26 年度 113
成果 指標A	簡易トイレ在庫数	セット	76	76	76	76	76	100	26 年度 150
成果 指標B	更新計画に対するアルファ米の充足率＝在庫数÷計画数	%	100	85	75	100	100	100	26 年度 100
成果 指標C	整備計画に対する避難場所標識の充足率＝設置数÷計画数	%	90.6	90.6	90.6	90.6	90.6	91.1	26 年度 95

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	1,536	399	809	1,803	1,260	1,536	*****
財源 内訳	④国	千円							*****
	⑤県	千円							*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	1,536	399	809	1,803	1,260	1,536	*****
	⑧その他	千円							*****
	合 計 (④～⑧) (=A)	千円	1,536	399	809	1,803	1,260	1,536	*****
延べ業務時間数		時間	176	176	176	176	200	200	*****
職員人件費 (B) (臨時職員賃金は、事務費に含む)		千円	704	704	704	704	800	800	*****
トータルコスト (A) + (B)		千円	2,240	1,103	1,513	2,507	2,060	2,336	*****

3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	①施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	☐ 見直す余地がある ☒ 結びついている	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	②公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	☐ 見直す余地がある ☒ 妥当である	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	③対象の妥当性 対象の設定は現状のままでいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？	☐ 拡大または絞る余地がある ☒ 現状で妥当である	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	④意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	☒ 拡大または絞ることができる ☐ 現状で妥当である	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
有効性評価	⑤成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	☒ 向上余地がある ☐ 向上余地がない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	⑥廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	☐ 影響がない ☒ 影響がある	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	⑦類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？	☐ 類似事業がある ☒ 類似事業がない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
効率性評価	⑧事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？	☐ 削減余地がある ☒ 削減できない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	⑨人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	☐ 削減余地がある ☒ 削減できない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	⑩受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	☐ 適正化余地がある ☒ 公平・公正である ☐ 特定の受益者はいない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
公平性評価	⑪費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	☐ 適正化余地がある ☒ 公平・公正である ☐ 特定の受益者はいない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革／改善方向	①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1、代替案その2とすること 他県等の災害を教訓に備蓄品目の拡大とそれに伴う保管場所の整備拡充、収容避難場所のバリアフリー化とプライバシー保護を図る。 ②改革、改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか？ それをどう克服していきますか？ (関連部門や全庁的な調整の必要性、トップへの要望も含む) 予算上の制約が問題。現在の枠配分での予算要求では、備蓄品の拡大をするには、他事業の廃止を検討しなければならない。
---------	--

5. 課長意見

一次評価	(1)一次評価者としての評価結果 <table><tr><td>① 必要性</td><td>☐ 妥当</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☐ 妥当</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☒ 妥当</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 妥当</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 必要性	☐ 妥当	☒ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 妥当	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 妥当	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 妥当	☐ 見直し余地あり	(2)全体総括(振り返り、反省点) 東日本大震災により備蓄分のアルファ米をほぼ出し尽くしたため、早急な補充が必要となる。簡易トイレは22年度予算に計上できなかったため、23年度には対応する必要がある。
① 必要性	☐ 妥当	☒ 見直し余地あり												
② 有効性	☐ 妥当	☒ 見直し余地あり												
③ 効率性	☒ 妥当	☐ 見直し余地あり												
④ 公平性	☒ 妥当	☐ 見直し余地あり												
今後の方向性と改革改善案	(3)今後の事務の方向性(改革改善案) <table><tr><td>☐ 終了</td><td>☒ 継続</td><td rowspan="2">☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) ☐ 改革改善を行う ☐ 事業統廃合・連携</td></tr><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td></tr></table> ↓ 方向付けの理由と改革改善の内容 災害時における各種の相互応援協定の締結が進んできていることから、当初の備蓄計画や品目等の見直しを行い、実際に被災した自治体の経験などを参考にしながら、当市にとって本当に必要となる備蓄品の確保に努めていく。		☐ 終了	☒ 継続	☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) ☐ 改革改善を行う ☐ 事業統廃合・連携	☐ 廃止	☐ 休止							
☐ 終了	☒ 継続	☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) ☐ 改革改善を行う ☐ 事業統廃合・連携												
☐ 廃止	☐ 休止													